



一週間違いで夏から秋へ

## 北ア 高瀬川・北葛沢

田邊(一)

【日時】 2010年9月25日(土)～27日(月)

【メンバー】 L田邊(一)、小川

トマでは何人かの方が遡行を切望しており、是非その方々と一緒に行きたがったのだが行程が2泊3日かかるということではなかなか予定も中々合わず、私の中では課題の沢となっていた。昨年も企画したのだが、急遽取り止めていたので今年中には落とそうと心に決めていたのであった。

今回は幸い若手のエース小川君と一緒にしてくれることになったので私としても心強い限りであった。

9/25(土)晴れ

昨晩は高瀬渓谷緑地公園の駐車場で仮眠をとったのだが、トイレにクマ出没注意の張り紙がしてあって、最近この付近で出没したということであった。北葛沢あたりは特に注意を促されており、9月の北海道山行から帰ってから興味が湧いた罨事件を片っ端から調べていた私にとっては何とも恐怖感が募るものであった。

北葛橋手前の駐車スペースは工事関係のプレハブが建っていて利用できなかった。仕方がないので高瀬トンネルを出たところの駐車スペースに車を停めて、トンネルを歩く。七倉ダムの土砂を運ぶトラックが列をなしてトンネル内を飛ばして来て怖いので早々にトンネルを通過する。

橋から沢の右岸の斜面をトラバースしながら踏み跡をたどるが、体が慣れていないせいか、所々急斜面が悪い感じであった。

沢床に降りてすぐに釣り師に出会ったが、感じのいい人で快く先を譲ってくれた。

下部ゴルジュ帯に入ると水量もかなりあって水も冷たい。つい一週間前までは夏日が続いていたのだが、台風の通過と共に一気に秋の気候となった。

豊野氏著「北アルプスの沢」の写真で激流をジャンプしている7mトイ状滝は同じく、小川君がお助けロープを握ってジャンプする。岩質が花崗岩なのでアクアステルスがバッチリと決まって、何とも心強い。続いて私もジャンプ一発小川君に続く。そのまま滝の右壁を登って滝上に出る。思っていたほどのことはないが、中々手応えのありそうな沢で心が踊る。

左岸から一ノ沢が出合い、3m滝を越えると沢はさらに狭まり両岸は高く立っている。流れも強く、油断していると流されそうな勢いである。2m滝は右岸のトラバース気味に登り、激流を飛んで左岸に渡る。続く3m滝は左岸に登るほかないようだがかなり立っているのが厳しそうだ。小川君がチャレンジするというので一旦はすぐの右壁を登り始めたのだが、どうにも行き詰まったようで、ハーケンを打ってカラビナを残置して戻

ってきた。弱点を見つけるべく水に浸かりながら少し進むと浅いルンゼがあるので、ここを登るほかないようだと思った。

ザイルを付けて再度、小川君がチャレンジするがルンゼをそのまま詰めないで壁をトラバース気味に登って考えている。いろいろシュミレーションした挙句、もう少しトラバースしたところでハーケンを打って、斜めに懸垂すれば滝は越えられると判断した。トラバースをきめ、ハーケンをしっかりと打って捨て縄をかけて小川君が壁の向こう側にうまく降りた。私も続いて降りたのだが、その先の滝が完全に登れないのが瞬時にわかった。

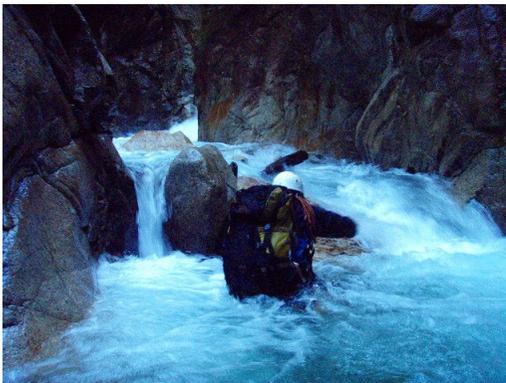
ロープを抜かずにATCをセットして振り子気味に先程のルンゼの中段に戻った。

結局、先程の浅いルンゼを登り切るしかなく、カムとハーケン打って進み、アブミを一箇所使って登りきった。残地のハーケンが一つあったが使い物にはならなかった。

そこから巻いて左岸から合流する支沢の手前に降りることができた。時間は15時半をまわっており、この通過だけで実に4時間近くを費やしてしまった。

その先は屈曲して白く泡立ちながら水流が流れこんできているところの右壁をヘツリながら進む。小川君はバランスを崩して、もろに流れを受けたが、流されずに済んだ。だが、頭からずぶ濡れだ。

その先の5m滝はトップが空身で左壁を登り、荷揚げしてからセカンドは上の木に支点を取ってもらって、振り子で岩を回りこむ。



どれも中々手強いが時間が押しているのでゆっくりはしてはられない。日が短くなってきているので、暗くなる前には下部ゴルジュ帯を出て適当なテン場を見つけたいものである。

その後も狭いゴルジュは続き、白く泡だった水流の下に足場を見つけながら進むと4m滝が現れる。ここは大岩を登って越えた。しばらく行くと大きな釜の先に滑滝となっているところがあるが、ここは倒木が

うまい具合に掛かっていたので、その木の上を、バランスを渡りながら越えた。

先に進むと狭いゴルジュの奥に7m程の両門の滝が見える。ここが二ノ沢の出会いで、二ノ沢には5mの滝が勢い良く落ちている。右岸を巻いて懸垂で沢床に降りる。小滝を越えると5mの滝が掛かっている、ガイド本では右壁を強引に登ったようだが

そんなことをしている時間もないので左岸を巻いた。ここはすんなり巻けたので良かった。

ようやく下部ゴルジュ帯を抜けたようで沢が一気に開けた。そろそろテン場をと思いつながら歩いているとナラタケを見つけた。採取してつまみの食材に加えた。

右岸に平らな草むらを見つけてツェルトを張った。ここなら多少の増水でも大丈夫そう。

9/26(日)晴れ(夜雨)

今日も一日天気は良さそう。昨夜はすっかり冷え込んだのでシュラフカバー一枚で寝た小川君は寒くて、よく眠れなかったようだ。

ゴーロを歩き始めてしばらく行くと、朽ち果てた吊り橋の残骸がかかっていた。上部ゴルジュ帯には堰堤もあるようだが何に使われていたのかは謎である。

そのまま30分ほどゴーロを進むと5m滝が現れる。いよいよ上部ゴルジュ帯の始まりである。とはいっても下部ゴルジュ帯より開けた感じで明るい。ここは右を登り、続く8m幅広滝は左を登って越えた。

その先の2段15m滝は登れないので左岸を高巻いた。5mナメ滝を越えると古い堰堤が現



れた。左には取水口が作られている。

取水堰堤で沢が左に屈曲すると一旦、沢が開けて明るくなるが、すぐに次のゴルジュ帯が待ち構えている。

10mくの字滝が勢い良く流れていて、一瞬通過は無理かと思われるが、私が流水の右側をシャワーを浴びながら偵察してみると、何とか抜けられそうであった。アクアステルスのフリクションを効かせて右に回り込みながら登り、何とか越えられた。小川君にはお助け

を出して登ってもらった。

次のナメ滝5mは右から巻いた。続く8m滝は小川君が右を空身で登って、お助けでザックを上げる。

右岸か7m、10mの滝をかけて合流してくる。沢を右に回り、2段10m滝を左から再度空身で登り、荷揚げで越えていく。すべてリードは小川君だ。

4m滝、5m滝と順調に越えていくと右岸から30mの大滝が水を落としている。その先には25mの滝が右岸にかかっていた。どちらも巻くのには時間がかかりそうなので本流に無くてホッとした。

再度、ゴルジュ帯が始まり、4m、5m、1.5m、3mと滝が続き息つく暇が無い。4m滝は登れず、左から巻く。2m滝、4m滝とスラブ状の滝を越えていくと大岩の3m滝が現れる。

その先で左岸からガレ気味の沢が滝をかけて入っており、次には右岸に2段10mの滝をかけて支沢が入る。このあたりは大岩の多いようで、次の4mの大岩の滝を越えると沢

を塞ぐように5mの大岩滝がかかっていた。大岩の横に大木が立っていたので、これを利用して何とか登れないかと思いを馳せながら小川君に「どう？」と聞いてみるが、首を傾げている。

ここは一丁登ってやるかと自分に言い聞かせてザックを背負ったまま木の枝が折れた部分を足がかりに登ってみるが、一本目の木を登ったところで180度身体を反転させなければならず、ザックが邪魔になったので、折れた枝にザックをかけて背中を壁に押し付けながらジリジリと登った。

5m滝を越えて小滝をいくつか越えていくと左から釜を連続させて七ツ釜の滝が現れた。ここは左岸から入る2本の支沢を横切りながらゴルジュの真上に出るようにトラバースして行く。うっすらと踏み跡があるのでわりと巻易い。真上から見た七ツ釜は迫力があつた。

懸垂なしで沢床におりると次第に両岸が広がり、見通しがよくなる。遠くに大滝が見えるが遡行図にはそんな滝はないので支沢の滝であるということが容易にわかる。近づくると右岸から40m近い高さで滝が落ちていた。それをやり過ぎて、右岸から沢が合流する辺りが地形図上で二俣になって、等高線がゆるい部分だ。

ここを今晚のテン場とするべく平らな所を探したが、石が多いせいか少々、土木工事が必要であつた。雪渓の大きな塊がいくつか右岸にあつて、標高も相まって今晚も寒いことが容易に想像できる。小川君はたくさんのお木を拾ってきて盛大に焚き火をするようだ。

つまみを作りながら木をくべ、火がいい頃になってきたところでポツポツと落ちてきた。これでは外で食事は無理そうなのでツェルトの中に逃げ込む。

その晩はやはりゆっくりと寝られなかったようで夜中にお湯を沸かして湯たんぽを作っていた。私はサマーシュラフを持ってきているのでフリースと雨具を着て、快適に寝させてもらった。

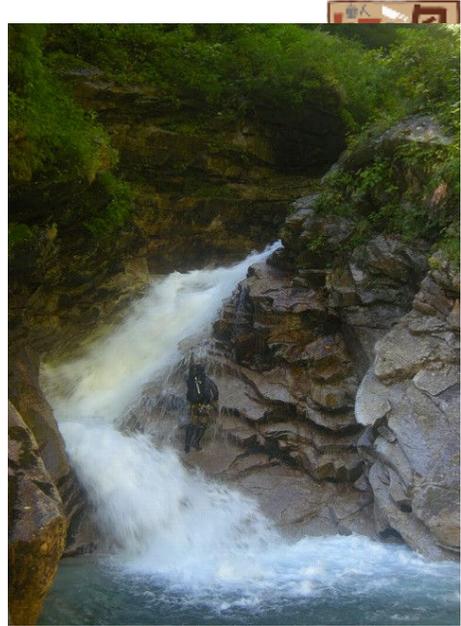
9/27(月)晴れ

今日は最終日。ここから先は何もないので気楽である。昨日と同じ時間に起きて、外は寒いのでツェルトの中で食事を済ませて出発する。

2.3小滝があるがその先はガレが続き、いきなりスノーブリッジが現れた。今年の冬は場所によって雪が多いところと、そうでないところにわかれていたように思う。北アのこのあたりは比較的積もったようであつた。

ガレ気味の本流を詰めて行くと、岩の壁に行く手を阻まれる。左にトラバースして一本左の沢を忠実に詰めて行くと登山道に出た。ここが北葛乗越しである。

小川君とがっちり握手をしてから休んでいると蓮華岳方面からスカート履いた最近





はやりの山ガールが現れた。平日でもいるもんだなと話しかけると、今日は船窪小屋までだということであった。ガスが晴れると目の前に針ノ木岳がドーンと現れた。やはり北アの縦走は天気の良い時に限る。



北葛岳を越えて船窪小屋経由で縦走を楽しみながら七倉に降りて、車を置いたところまではタクシーを使った。

天気予報では太平洋側から東北方面まで天気が悪く、まとまった雨が降っていたようだったが、こちらは昨夜に少し雨にやられた他は行動中も天気に恵まれて充実した山行ができて助かった。パートナーと天気に恵まれた山行に感謝。小川君、また手応えのある沢に行きましょう！

【グレード】 4級上

【行程】 9/25 北葛橋(9:00)～一ノ沢出合(10:00)～二ノ沢出合(16:40)～C1(17:50)

9/26 C1(6:30)～七ツ釜下(13:30)～C2(15:45)

9/27 C2(6:30)～北葛乗越(8:25)～北葛岳(10:15)～船窪小屋～七倉(15:00)

【地図】 黒部湖、大町

